

【中山間地域での薬草栽培】

B： 漢方薬メーカーに薬草を出荷していますが、このメーカーとの出会いがちょうど23年ぐらい前になりますが、私は人の出会いは宝を運ぶものであるという認識をしております。このメーカーは、高知県にも非常に深い関係がございます。いい人に囲まれて今日までまいりました。

現在、薬草の栽培地としては、仁淀川地域は県境を越えております。それから県内の南のほうでは宿毛とか大月など県内いたる所へどんどんお願いをしたりして、サンショウの栽培面積にして67haぐらいあるんですが、まもなく100haの面積が達成できそうです。

ですから、今いくらでもこれから作っていくという覚悟で工場の充実とかを進めていて、それが1600㎡ぐらいあり、中には茶工場であった所なども活用しております。漢方薬メーカーのほうから資金を出していただいて、全部機械は貸与でやっています。不思議なくらいついて、恐らくもう6年ぐらいしたら売り上げも8億ぐらいになるんじゃないかという計算もしております。研究品目についても12品目ぐらい一緒に研究しております。今流域の中で、越知町が一番薬草の栽培が多いですけど、いの町などいろんなところから要望があって一緒にやっつけていこうや、みんなで生きていこうやという考え方です。もう私も1人で指導しきれなくなって、若い連中にちょっと行って来いと言ってもらっております。

それからもう1点は、土佐の漢方の中からいくつか研究して今後商品化をするよう進めております。会社のある越知町今成地区は水没区域ですが、災害時の移動も考えて研修所と一緒に避難所も作っつけていこうと着工しております。今回の大震災があって、そのメーカーとのいろんな連携のために、工場の分散もこれから考えていかないといけないところどころです。

我々は前だけを考えてやっつけていったらいいと思っておりますが、一番困っているのは繁忙期の人手が800人くらい不足しているので、どこから構えてくるかということです。

時間があつたらまた来ていただければ、百聞は一見にしかずということがございますので、どうぞよろしく願いいたします。

知事： 県域を越えて和歌山あたりからも加工してくれと依頼があるそうで、すごいですね。

漢方薬メーカーには私2年前にご挨拶に行ったことがあって、そのときに「高知県の農家の皆さんが大変お世話になってます」と私が言ったら、向こうから、「全く逆ですよ」「私たちが本当にお世話になっているんで、越知町の皆さんのお力がなかったら漢方薬っていうのはできないんだ」というお話をされました。

2点ぐらいお伺いしたいのですが、この漢方薬を作っていくということは、比較的軽いものが作れるということもあつたりして、中山間地域の今後の現金収入を得ていくための一

つの大きな武器になるんじゃないかと思うんですよね。こういう取り組みというのは、ど
んどん県内に広げていきたい、さらにもっと言えば、いろんな品目を栽培できればもっと
県内のいろいろな中山間地域へ広げていけるんじゃないかと思うんですよ。多分、企業秘
密で全て教えていただけないところもあるんだろうと思いますが、今後の中山間地域の現
金を獲得していくためのエースとして漢方薬栽培というのをどう広げていくのがいいだろ
うかと、そこらあたりのアドバイスをいただけないでしょうか。中山間対策の柱の一つに
したいと思っています。

実は牧野植物園もいろいろ新しい薬草の栽培、開発をされていて努力をされているんですけ
ど、いろいろお力を賜って、ミシマサイコだけじゃなくて、新しく開発している漢方薬と
か漢方の薬草とかを、是非、いろいろな地域で使えるようにできればいいと思います。本
当よろしく願いいたします。

それから2点目、さっきお話をいただいたことですが、繁忙期の農業従事者が800
人くらい不足するということですが、実際にはどうしておられるんですか。

B : サンショウを採るのに60日ぐらいかかるんですが、機械の稼働率を高めていくと
いうことにはやっぱり海拔差で勝負していかないといけないと考え、そういうことも一つ
の狙いで栽培地域を源流へ源流へ上っていったんです。

知事： ああ、それで時期をずらしていくんですか。

B : はい、そうです。そうしたら機械の稼働率がものすごくいいでしょう。

知事： できるだけ収穫を集中させないようにしている。薬草は加工するからそういうのが
可能なんですか。

B : 植物の開花の時期が随分違ってきますので。

知事： なるほど。人手不足で人口が少ない大変なところの対応として、そうやって植える
場所をいろいろ工夫することでピークを抑えて、安定的にたくさん作ることができる、そ
ういうようなことなんですね。

B : もう1つは、栽培を広げた流域各地の雨量を知るということは、やっぱり下流に住
む我々はその影響を非常に受けるので、どれぐらい降ってますかという情報が、すぐ入っ
てきて防災的なネットワークもできています。

知事： 本当に軽くて比較的栽培のしやすい植物というのを複数持つておくことで、中山

間地域の集落で現金収入が得られるようにしていくという方向を目指したいと思ってまして、こうち型集落営農という取り組みを進めていこうとしています。例えば、ご存知の越知町の横畠地区の皆さんも、まさにそういう取り組みをして、いろいろな作物を育てて周年的に複数回、収穫をする場を持つようとしておられる。それで、現金収入が得られるので集落は成り立っていく、この方向を目指していきたい。その中で本当にこの薬草というのは、今後高知県にとって非常に重要な作物じゃないかと思っていますが、引き続き是非いろいろとご指導ください。